



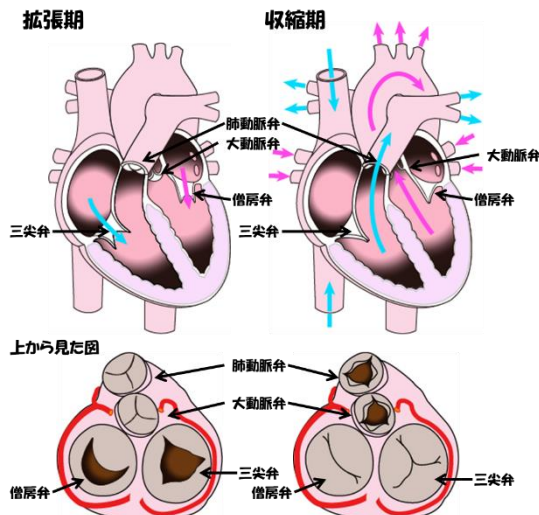
大動脈弁狭窄症をご存じですか？

心臓血管外科
赤坂 純逸

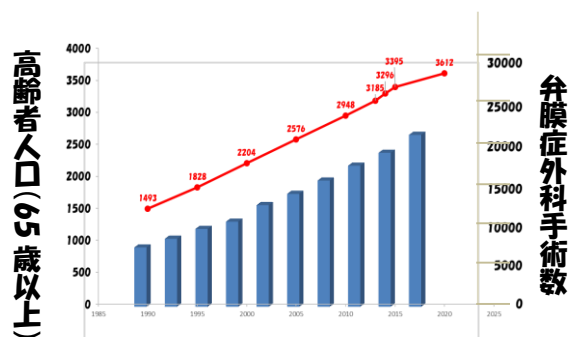
心臓には 4 つの弁があり、その弁が壊れて、通常の機能を果たせなくなった状態を弁膜症といいます。我が国では、人口の高齢化に伴い動脈硬化を原因とした弁膜症患者が増加傾向にあります。ところで、心臓から拍出された血液は、大動脈を介して全身に届けられますが、心臓の出口（または大動脈の入口）にある弁を大動脈弁といいます。動脈硬化の進行により大動脈弁に変性や石灰化を生じ、弁の可動性が制限される大動脈弁狭窄症は弁膜症の代表的な疾患です。我が国における 60 歳以上の大動脈弁狭窄症患者は約 284 万人、そのうち重症な患者は 56 万人と推定されています。

初期の段階では症状は軽く、「最近、息切れがするな」とか「疲れやすいな」といった程度で、年のせいかと医療機関を受診しない方が多いのですが、進行すると心不全を生じ、命に係わる状態となります。初期には薬剤で症状を抑えることも可能ですが、進行すると薬剤では症状を抑えられず、手術が必要となります。進行した状態で長期間放置されると心臓自体の機能が低下します。心機能が低下した状態では、弁自体は手術により正常な状態に戻ったとしても心臓の機能が元に戻らず、予後（治療後の見通し）は不良となります。よって、大動脈弁狭窄症と診断されたら心機能が低下する前に手術を受けられることが勧められます。

当院では年間 30 例程度の弁膜症手術を行っており、術後は皆元気に外来通院しております。最近、「息切れがするな」とか、「疲れやすいな」といった症状はないでしょうか？心配な方は、かかりつけ医に相談の上、心臓血管外科に紹介していただければ、治療についてご説明させていただきます。



正常な大動脈弁 大動脈弁狭窄症



{お知らせ}

5月の市民公開講座は休会です。 次回 6月6日(土)開催予定